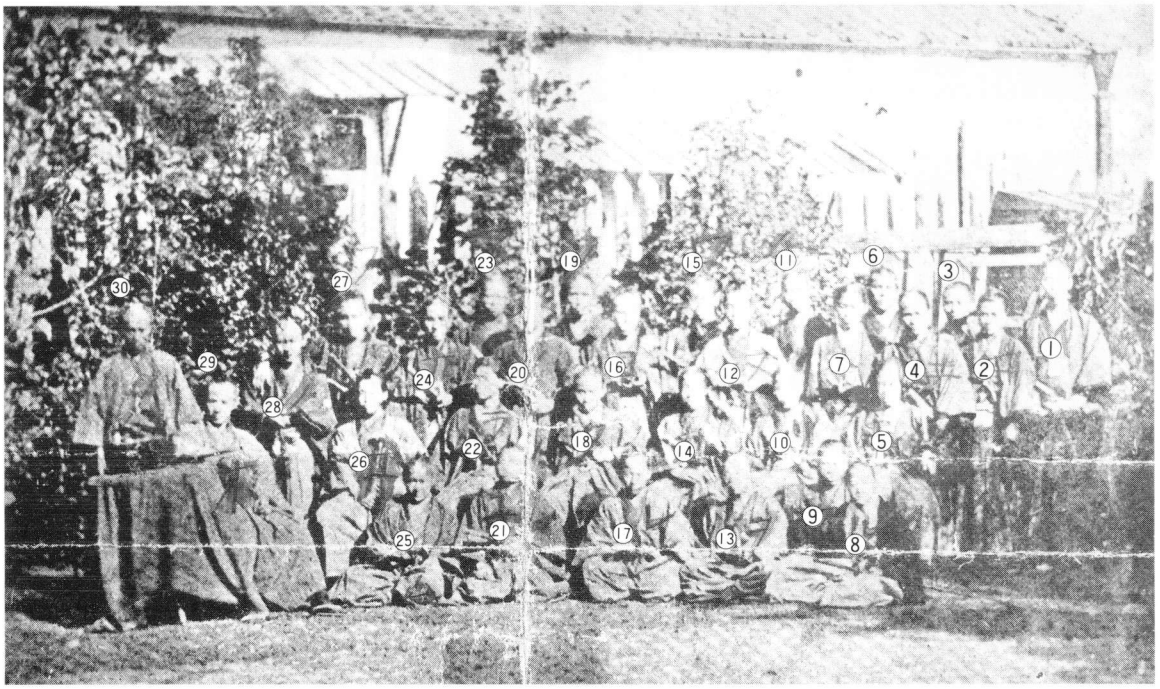
沼津市
明治史料館通信

1989.4.25（季刊 年4回発行）Vol.5 No.1　通巻第17号



横浜語学所の職員・生徒たち（名古屋市　熊谷孝一氏提供）

①福田八郎右衛門　②河合捨吉　③中山右門太（譲治）　④伊東　栄　⑤千田東兵衛　⑥山高信離　⑦伊藤隼助　⑧竹本隼太　⑨北村安節　⑩酒井　某　⑪小野弥一　⑫山内勝明　⑬細谷安太郎　⑭小栗又一　⑮長田銈太郎　⑯岡田顕次郎　⑰鳥居八十五郎（酒井 清）　⑱関　某　⑲日下　寿　⑳高林　某　㉑宮沢銈蔵　㉒熊谷直孝　㉓福島時之助　㉔田中弘義　㉕酒井　某　㉖飯高平五郎　㉗保科正敬　㉘栗本貞次郎　㉙川勝近江守　㉚某

シリーズ　沼津兵学校とその人材〈16〉

横浜語学所の出身者

横浜語学所は、フランス公使レオン・ロッシュと幕府内親仏派の代表栗本鋤雲・小栗上野介らの意図により、慶応元年（一八六五）に開設された幕府のフランス語学校である。当時徳川幕府は、ナポレオン三世治下のフランスと政治的に強く結び付き、軍事顧問団の招聘とそれによる陸軍三兵伝習、横須賀製鉄所の建設といった政策を押し進め、軍事力の拡大を背景に幕権の強化を目指していた。幕臣に対するフランス語教育の必要は、これらの政策を推進するための緊急の課題だったのだ。

同校では、教頭メルメ・カション以下のフランス人教師が直接指導にあたり、多くの幕臣子弟を教育した。生徒の数は、百数十名にのぼったのではないかと考えられるが、その中からは、開成所の教授や製鉄所の伝習生になったり、三兵伝習の通訳をつとめたり、パリ万国博に通訳として派遣される者が出るなど、人材が輩出した。

慶応四年（一八六八）同校は新政府に接収され、のちにその教授・生徒は

大阪兵学寮に編入されるに至った。

横浜語学所の出身者には、幕府時代の活躍に引き続き、維新後も明治政府に仕えて官僚・軍人・技術者などとして功績を残した人物が少なくなかった。また、維新後の一時期沼津兵学校の教授や生徒になっていた者もあった。横浜語学所出身で沼津兵学校に関係した人物を以下に紹介してみよう。

神保長致（一八四二～一九一〇）

通称寅三郎。滝川八郎一新の子として生まれ、二の丸御留守居神保常八郎長貴の養子となった。横浜語学所で学んだあと、フランス人士官の通訳をつとめながら三兵伝習を受け、騎兵差図役勤方になった。沼津兵学校では、生徒から教授に抜擢され、三等教授として数学を担当した。明治政府出仕後は、陸軍兵学寮・陸軍士官学校で教鞭をとった。

山内勝明

山内勝明（一八四八～一九一二）

通称文次郎。大砲差図役勤方のとき横浜語学所に入学。慶応三年パリ万国博覧会に列席する徳川昭武に通訳として随行。また留学生として欧州を歴訪した。沼津では三等教授をつとめ、フランス語を担当。政府出仕後は外務省や宮内省で活躍した。

熊谷直孝（一八五〇～一九四二）

通称次郎橘。栗本鋤雲が母方の叔父にあたる関係から、語学所入学を勧められた。沼津では教授方手伝としてフランス語を担当。明治政府出仕後、明治五年から七年までフランスに留学して化学・物理を学び、以後横須賀造船所において技術教育に生涯を捧げた。

熊谷直孝
（熊谷孝一氏提供）

岡田顕次郎

前頁の横浜語学所職員・生徒の集合写真に写っている⑯の岡田顕次郎は、沼津兵学校第三期資業生の同名の人物と同一人物であると考えられる。しかし、その経歴は不明である。

一方、沼津兵学校の姉妹校静岡学問所のほうにも横浜語学所の出身者が多かった。二等教授長田銈太郎、同田中弘義、四等教授神原操、五等教授織田信義、同日下寿、教授世話心得成島謙吉、同田中文吉、同益頭尚志（峻南）、同竹村本五郎といった人々である。

なお、沼津兵学校でフランス語を担当した教授の中には、横浜語学所出身ではないが、同校とは密接な関係にあった横須賀製鉄所でフランス語を学んだ者もいた。静岡学問所で四・五等教授をつとめ沼津兵学校教授方手伝に転任した小野清照（勝太郎）である。

小野清照（一八五一～？）は、幕臣小野新之丞の長男に生まれ、昌平黌・開成所で学んだ。慶応三年三月横須賀製鉄所の訳官を命じられ、フランス人技師の通訳にあたった。維新後は静岡・沼津の両校につとめた後、明治四年兵部省に出仕、のち農商務省に転じて記録事務を担当、明治三十年から三十六年までは広島の陸軍幼年学校でフランス語を教えた。著書には『仏蘭西学独案内』、『統計論』などがある。

長田銈太郎

明治4年(1871)サンフランシスコで撮影し、江原素六に贈ったもの。長田は通訳として海外視察静岡藩代表の江原に同行し、渡米していた。

沼津兵学校の資業生には、英語とフランス語が選択課目として課せられていたが、英仏どれくらいの割合で生徒数が分かれたかは不明である。ともあれ、神保・山内・熊谷・小野らにより本場フランス人仕込の語学教育が行われたことであろう。

〈参考文献〉倉沢剛『幕末教育史の研究』一・二、富田仁『フランスとの出会い』、富田仁・西堀昭『横須賀製鉄所の人びと』、富田仁編『海を越えた日本人名事典』、西堀昭『日仏文化交流史の研究』、古林亀治郎編『現代人名辞典』など。

江原素六とその周辺〈10〉

弟・江原義次

江原義次

江原素六の次弟は義次（儀次とも書く）といい、嘉永三年（一八五〇）三月三日父源吾の次男として生まれた。秀才の誉高く十五歳のとき昌平黌に入学し、のち横浜語学所でフランス語と馬術を修めたらしい。『江原素六先生伝』には、「幕府選抜して仏蘭西に留学せしむる事となりしにより、準備の為め横浜に開塾せる仏人の寄宿舎に入る、仏人仏語を教ゆる傍ら運動の為めとして馬術を練習せしむ。然るに給費の関係上留学中止となりしにより空しく帰附し」と記述されているが、これが横浜語学所のことだと考えられる。

慶応二年（一八六六）一二月時点での横浜語学所生徒五十九名の中に、「江原鉦次郎」という名前があるが、これが義次のことではないかと思われる。

維新後義次は明治政府に出仕し、「大学南校の仏語教授」になったという。『東京帝国大学五十年史』によると、明治二年当時の開成学校三等教授（教授試補）として「江原鉦次郎」の名前がある。

義次は、兄素六が戊辰戦争で賊軍に身を投じたため廃嫡となった関係上、家督を継いだ。のち陸軍御用掛となりフランス語と馬術を担当したというが、明治四年当時陸軍中尉として大阪鎮台に勤務していたことを示す文書も残っている。間もなく沼津に移住したらしいが、その後の経歴は謎である。

明治三十二年（一八九九）三月十九日没。駿東郡鷹根村柳沢の長倉米作が養嗣子となり相続した。

鈴木経勲
（森本史郎氏提供）
日清戦争の従軍記者当時

ぬまづ近代史点描⑫

明治の南洋探検家

鈴木経勲

明治以後静岡県内で一番最初にカトリック教会が出来たのは沼津市松長（当時駿東郡松長村）である。かつて横浜語学所で学び維新後松長村に移住した旧幕臣鈴木龍六（一八四八～一九一〇）が、東京で入信したのち、明治八年（一八七五）フランス人神父マランを同行し、松長村で村人たちに洗礼を授けたのである。

その龍六の弟経勲（退介　一八五三～一九三八）も、やはり幕末に横浜語学所でフランス語を学んだ一人だった。彼は維新後静岡藩沼津郡方になった父や兄とともに松長に移住した。その後一時兄とともにカトリック伝道に従事し、のち上京して外務省に入った。そして明治十七年（一八八四）邦人虐殺事件に際しマーシャル群島に派遣されたのがきっかけで、以後南洋探検家・南進論者として名を馳せることになった。外務省を辞した後、明治二十年（一八八七）から二十三年（一八九〇）にかけ硫黄島・ハワイ・サモア・フィジー・グアム・ヤップ・パラオなどを歴訪するかたわら、政府に無人島占領を建策したり、南洋との交易事業を手がけたりした。また二十五年から二十六年にかけ、三部作『南洋探検実記』・『南島巡航記』・『南洋風物誌』を刊行した。これらの著作は、現在も復刻が出されており、南洋諸島に関する紀行・記録として再評価されている。

経勲や鈴木氏についての詳細は、『沼津市博物館紀要』12を参照。

お知らせ欄

◎企画展「沼津藩の人材」の開催について

今年度夏の企画展は、歴史民俗資料館と共同のテーマとして沼津水野藩を設定し、二館で同時開催します。藩全般について扱う歴史民俗資料館に対し、当館は人物中心の展示を行います。沼津藩は五万石の小藩でしたが、その家臣団の中には優れた人材が少なくありませんでした。沼津藩が輩出した人材について、藩時代は勿論、明治以降の活躍も含め、紹介します。

期　間：8月1日(水)～9月29日(金)
会　場：明治史料館4階展示室

また、展示替えのため左記の期間4階展示室を閉室とします。

準備期間：7月25日～7月31日
片付期間：9月30日～10月3日

◎歴史講座「沼津藩の人材」の開催について

企画展にあわせ、歴史講座「沼津藩の人材」を開催します。受講料は無料。会場は明治史料館講座室。定員一〇〇名。受講申込みは当館までお電話で。

歴史講座「沼津藩の人材」日程・講師・演題（仮題）

8月6日(日)午後2～4時
平野日出雄氏（フリーライター）「（土方縫殿助について）」
8月13日(日)午後2～4時
道家達将氏（茨城大学教授）「（手島精一について）」
8月20日(日)午後2～4時
宇野量介氏（元東北工業大学教授）「水野重教日記からみた幕末の沼津藩」
8月27日(日)午後2～4時
秋山繁雄氏（元明治学院大学史料室）「沼津藩出身のキリスト者・三浦徹と服部綾雄」
9月3日(日)午後2～4時
館学芸員のスライドによる解説「沼津藩士の群像」

◎「沼津市博物館紀要13」刊行の御案内

体裁：B5判一七〇ページ
内容：第I部▼瀬川裕市郎（歴史民俗資料館主任学芸員）「マイクロ・フレイキングの統計解析と解釈」▼山本恵一（歴史民俗資料館学芸員）「静岡県東部の古墳時代後期の土師器について」▼笹原芳郎（昭和61年度歴史民俗資料館研究員）「愛鷹・箱根山麓における砂川期の石器群」　第II部▼樋口雄彦（明治史料館学芸員）「伊豆における平田派国学門人の一動向―羽田直秀（富士万）宛平田銕胤書簡の紹介から―」▼高本浅雄（昭和62・63年度歴史民俗資料館研究員）「戸田村の石切文書」▼樋口雄彦（同前）「史料紹介・沼津兵学校附属小学校の掟書追加」
頒価：二〇〇〇円（送料二五八円）

販売は、当館と歴史民俗資料館で行っております。郵送の場合は、頒価に送料を加え、現金書留か郵便為替でお願い致します。

◎新収の新聞マイクロフィルムを御利用下さい。

当館では、新たに左記の新聞マイクロフィルム計六十七リールを資料閲覧室に備え付けました。

静岡新報（明治28・3～大正6・1　従来の欠号分）　東海暁鐘新聞（明治24・11～26・11）
静岡新聞（昭和16・12～33・12）

◎ゴールデンウィーク中の開催

ゴールデンウィーク中の休館日は次の通りです。これ以外は開館しておりますので、御家族連れでお出掛け下さい。

休館日：5月1日(月)、5月6日(土)、5月8日(月)

◎5月19日は無料開放日

江原素六の命日を記念し、五月十九日は展示室を無料で開放します。この機会に御来館下さい。

なお、この日は、当館北方の駿河台の墓前で、素六の遺徳をしのぶ記念祭が社団法人江原素六先生顕彰会の主催で行われます。

◎職員の人事異動のお知らせ

四月一日付の人事異動により、主事長沢利之が水道部業務課主査として転出し、代って新規採用職員の真野正実が着任致しました。今後とも変らぬ御支援をお願い申し上げます。

沼津市明治史料館通信　第17号
編集・発行　沼津市明治史料館
〒410 沼津市西熊堂372―1
☎〇五五九(23)三三三五